

第一次世界大戦の開戦原因の研究

研究者プロフィール

- ・氏名 杵淵 文夫（きねふち ふみお）
- ・所属 文学部歴史学科 准教授
- ・専門 ドイツ・オーストリア近代史
- ・研究分野 歴史学
- ・所属学会 西洋史研究会、社会経済史学会、東北史学会ほか
- ・学位 博士（文学）
（東北大学大学院文学研究科博士課程修了）



研究内容

第一次大戦（1914-1918年）は、その前と後とでヨーロッパが大きく変わる大事件でした。直接のきっかけとしてはオーストリア＝ハンガリー帝位継承者の殺害事件が知られていますが、ではなぜ開戦することになったのか、政治指導者たちさえも分からないと述べています。

そこで、開戦直前1カ月間の列強の外交交渉に原因を求める方法から、19世紀末にさかのぼって同盟体制や貿易摩擦等に遠因を探る方法まで、様々な観点から研究を行っています。



サライエヴォ事件直前の写真

関連キーワード

ヨーロッパ史 近代史 第一次世界大戦

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ他

市民や学生向けのヨーロッパ近現代史の講義等

第一次世界大戦の開戦原因の問題だけでなく、ヨーロッパ近現代史の事柄について知見を提供できます。

（実施例）

エスパル教室 河北TBCカルチャーセンターの講座（2016年度）

仙台からの世界史ラジオ エフエムたいはく株式会社（2015-2024年度）

研究者への連絡先

産学連携推進センター Email srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
電話 022-354-8122